



2021年4月 第19巻 第4号

今月の予定

### かく語りき—聖人の言葉

霊性の実践とは、心をしっかりと神の蓮華の御足に置き、神の思考に没入することです。

…ホーリー・マザー・シュリー・  
サーラダー・デーヴィー

あなたの中にある無限の潜在的な可能性を悟りなさい。

…ザラスシュトラ

### 今月の目次

- かく語りき——聖人の言葉
- お知らせ
- 2021年5月、6月の予定
- 2021年4月シュリー・ラーマクリ  
シュナ生誕祭
- 生誕祭での講義  
「シュリー・ラーマクリシュナに  
ついての考察」  
スワーミー・メーダサーナンダ
- 忘れられない物語
- 今月の思想

～お知らせ～

コロナウイルスの影響のため、引き続きライブストリーミングやズームなどの配信を中心に、皆様にお届けいたします。ズームに関するお問い合わせ、お申込みは下記にメールをお送りください。

[zoom.nvk@gmail.com](mailto:zoom.nvk@gmail.com)

これまでニュースレターにスケジュールの詳細を掲載していましたが、内容がホームページと重複しておりますので、今後は日程と行事名のみをお知らせいたします。スケジュールの詳細はホームページにてご確認ください。

### 2021年5月、6月の予定

- 5月の生誕日  
シュリー・シャンカラチャーリヤ  
5月17日（月）  
シュリー・ブッダ  
5月26日（水）

（訂正とお詫び）

3月のニューズレターにて「5月の生誕日はありません」と記載しましたが、上記のように訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。

(ニューズレター担当者)

6月の生誕日

ヴィッシュダ・シッダーンタ暦では、2021年6月に生誕日はありません。

### ・6月の協会の行事

#### <6月のスケジュール>

6月02日(水) 8:30~9:15 ウィークリー・ウパニシャッド・クラス

6月06日(日) (5月31日より変更)

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ 公開祝賀会

6月12日(土) (6月5日より変更)

インド大使館バガヴァッド・ギター 聖典講義

6月13日(日) 14:00~16:00

『ラーマクリシュナの福音』勉強会

6月16日(水) 8:30~9:15 ウィークリー・ウパニシャッド・クラス

6月20日(日) シュリー・ブッダ 生誕祭

6月23日(水) 8:30~9:15 ウィークリー・ウパニシャッド・クラス

#### <ホームレス・ナラ・ナーラーヤナへの奉仕活動>

日程：通常 毎月 第4金曜日  
現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤  
urara5599@gmail.com

#### <ハタヨガ・クラス>

日程：通常 毎月 第1、第2、第4土曜日 10:30~12:00

※スケジュールは変更になる可能性がございます。詳細は[ホームページ](#)をご覧ください。

### 2021年4月返子

#### シュリー・ラーマクリシュナ生誕祭

4月4日(日)、日本ヴェーダーンタ協会ではシュリー・ラーマクリシュナの生誕祭が行われた。

ヴィッシュダ・シッダーンタ暦による今年のシュリー・ラーマクリシュナの生誕日は3月4日(金)であったが、再燃したコロナウイルスの影響で4月に延期され、信者の参加を制限されての開催となった。



行事は午前6時より、マンガラアーラティ、聖句詠唱、バガヴァッド・ギター朗誦で始まった。

その後、数名のボランティアが花、供物、音響、儀式台などの準備のために

集まり、本館の台所では昼食の準備も始まった。

## プージャ（礼拝）



新館の美しく装飾された祭壇でプージャが始まった。スワミー・メーダサーナンダ（マハーラージ）がマントラを唱え、スワミー・ディッヴィヤーナターナンダ（ア Nilヴァン・マハーラージ）が儀式を執り行った。プージャの終わりにマハーラージが参加者に、「目を閉じて想像してください、ここにおられるシュリー・ラーマクリシュナが祭壇で供物を召し上がっています」とおっしゃった。

## アーラティ

プージャが終わり、五大構成要素（エーテル・空気・火・水・土）を象徴す

る供物（炎・牡牛の尾でできた扇・織物など）を捧げるアーラティとなった。ディッヴィヤーナターナンダジーによる供物奉獻の間、参加者はスワミー・ヴィヴェーカーナンダ作詞の『カンダナ・バーヴァ・バーンダナ（この世の束縛の破壊者）』をシャンティ・泉田さんのシンセサイザー伴奏で歌った。

【カンダナ・バーヴァ・バーンダナ】  
カンダナ バヴァ バーンダナ ジャ  
ガ ヴァーンダナ ヴァンディ トマー  
イ

ラーマクリシュナ！あなたはこの世の束縛を断ち切るお方。私はあなたに敬礼いたします。

ニーラーンジャナ ナラ ルパ ダラ ニ  
ールグナ グナ マーイ

あなたは性質や形を持った「神の化身」でもあり、性質や形の無い「ブラフマン」でもあられます。

モーチャナ アガ ドゥーシャナ ジャ  
ガ ブーシャナ チーッド ガーナ カー  
イ

あなたは全ての罪を取り除くお方。宇宙を飾る素晴らしい宝石。凝縮した意識。

ギャーナーンジャナ ヴィマラ ナヤナ  
ヴィークシャネ モハ ジャーイ

あなたの知識の目はとても清らかで美しい。

私たちはあなたを深く理解するところの世の幻惑がなくなります。

バーシュワラ バーヴァ シャーガラ  
チラ ウーンマダ プレーマ パタール

あなたは気高く輝く「愛の大海」。  
そして「恍惚の愛の波」。

バークタールジャーナ ジュガラ チャ  
ラナ ターラーナ バーヴァ パール

あなたの御足は我々信者たちの避  
難所。その御足は船となって世俗の海  
を渡してくださる。

ジリムビタ ジュガ イッーシュワラ  
ジャガ ディーシュワラ ヨーガ シ  
ャハーイ

あなたは宇宙の主、神の化身。この  
現代、霊性を求めて励む人を助けるた  
めに現れられた。

ニーローダーナ シャマーヒタ マナ  
ニラキ タヴァ クリパーイ

あなたの恩寵で私は自分の心を抑制  
することができ、心静かにあなたを見  
ることができます。

バーンジャナ ドウツカ ガーンジャー  
ナ カルナ ガーナ カールマ カトール

あなたの恩寵で、この世のあらゆる  
苦しみ悲しみは消え、深い慈悲でいつ  
も私たちを守ってくださる。

プレーナールパナ ジャガタ タラナ  
クリンタナ カリ ドール

そしてこの世のあらゆる苦しみや災  
難から私たちを守り、カリユガの悪  
い影響をも断ち切ってくださいとお方。

ヴァーンチャナ カーマ カーンチャナ

アティ ニーンディタ イーンドウリヤ  
ラーグ

あなたは肉欲と金、五感から生じる  
すべての執着を完全に放棄したお方。

ティヤーギーシュワラ ヘ ナラ ヴ  
ァーラ デハ パデ オヌラーグ

おお！ あなたは最高に放棄したお  
方！最高に高貴なお方！ 私たちに  
あなたの御足への深い愛を与えてく  
ださい。

ニールバヤ ガタ シャームシャヤ ド  
ウリハ ニースチャヤ マーナシャ ヴ  
ァーン

恐れが全くなく、すべてのものを完  
全に放棄し、断固たる決意を秘めてい  
らっしゃるお方。

ニーシュカーラーナ バカタ シャラナ  
ティヤジ ジャティ クラマーン

身分や家柄の差別なく、あなたに助  
けを求める全ての人にとっての避難所。

シャームパダ タヴァ スリィパダ バ  
ーヴァ ゴーシュパーダ ヴァーリ ジ  
ャターイ

この世の苦しみは果てしない海のよ  
うだが、あなたの恩寵で牝牛の足跡  
にできた水溜りほどに小さくなる。

プレーマールパナ シャマ ダラシャナ  
ジャガ ジャナ ドウツカ ジャーイ

あなたを信じる者すべてに、等しく  
愛を注ぐお方よ。あなたを深く思え  
ば、この世のすべての苦しみは消え  
て無くなる。

ナモー ナモー プラブ ヴァーキャ マ  
ナ ティタ マノ ヴァチャナイ カーダ  
ール (プラブ)

繰り返し主なるあなたに礼拝します。  
おお！言葉と心の限界を超え、しか  
もそれら両者の共通の基礎である主  
よ。

ジョーティラ ジョーティ ウジャラ  
フリディ カンダラ トウミ タマバン  
ジャナ ハール (プラブ)

あなたの光輝く永遠の光で、私の無  
知を滅ぼし、私の内なる心を照らして  
ください。

デ デ デ ランガ ランガ バンガ バー  
ジェ アンガ シャンガ ムリダンガ

「デデデ ランガ ランガ バンガ」  
と鳴る太鼓、ムリダンガの音に合わせ  
て、

ガイチェ チャンダ バカタ ヴリンダ  
アーラティ トマール

あなたの大勢の信者たちがあなたの  
賛歌を歌う。

ジャヤ ジャヤ アーラティ トマール  
ハラ ハラ アーラティ トマール シヴ  
ア シヴァ アーラティ トマール

万歳！万歳！シヴァ神のようなあな  
た！（シュリー・ラーマクリシュナ）※  
ハラはシヴァ神の別名

カーンダナ バヴァ バーンダナ ジャ  
ガ ヴァーンダナ ヴァンディ トマー  
イ

ラーマクリシュナ！あなたはこの世  
の束縛を断ち切るお方。私はあなたに  
敬礼いたします。

ジャイ スリー グル マハラージー キ  
ー ジャイ！

偉大なる師よ、万歳（勝利あれ）！

続いて参加者はシャンティ泉田さんの  
リードで『サルヴァ マンガラ マン  
ガリエ（聖母への賛歌）』を歌った。

【サルヴァ マンガラー マンガーレ  
ー】

オーム サルヴァ マンガラー マーン  
ガーリエ シヴェ サルヴァールタサー  
ディケ

オーム、吉祥の女神、すべての善の  
行為者であられるお方。全ての祈りを  
かなえて下さるお方よ。

シャランネエ トリヤムバケ ゴウリ  
ナーラーヤニ ナモーストゥテ

三つの眼をお持ちのガウリ女神、我  
らの避難所であるお方。

おお、ナーラーヤニ！あなたに敬礼  
をいたします。

スリシュティ ステイティ ヴィナーシ  
ャーナム シャクティ ブーテ サナ  
ータニ

この世を創造、維持、破壊する力を  
お持ちの、永遠なるお方よ。

グナーシュラエ グナマイ ナーラーヤ  
ニ ナモーストゥテ

三つのグナの根本であり、権化であ

られるお方。おお、ナーラーヤニ！あなたに敬礼をいたします。

シャラナーガタ ディーナールタ パリ  
トゥラーナ パラーヤネ

あなたに救いを求める者、落胆した者たちや苦しむものたちをお救いになるお方。

サルヴァスシャルティハレ デーヴィ  
ナーラーヤニ ナモーストウ テ

おお女神よ！すべての者の苦しみを取り除いてくださるお方。おお、ナーラーヤニ！あなたに敬礼をいたします。

ジャヤ ナーラーヤニ ナモーストウ  
テ (×4回)

あなたに栄光あれ！おお、ナーラーヤニ！あなたに敬礼をいたします。

### 花奉獻 (プシュパンジャリ)

アーラティの終わりに数名の参加者にシュリー・ラーマクリシュナにお供えする花と葉が配られた。全員が起立し、マハーラージの先導でプシュパンジャリ・マントラとプラナム・マントラをシュリー・ラーマクリシュナに捧げた。

### 護摩 (ホーマ)

護摩焚きの用意をした儀式台では、お二人のマハーラージが着席し、花、葉、果物、ギーなど、供物奉獻の最終準備が整った。マハーラージがホーマ

を取り仕切られた。炎がパチパチと踊る中、マハーラージは参加者にマントラを 108 回唱えるように言い、さらに多くの木をくべ、ギーに浸した花と葉が大きな炎の中に捧げられた。





「オーム フリム サルヴァ デーヴァ  
 デーヴィ スワルーパヤ シュリー  
 ・ラーマクリシュナーヤ スワーハ  
 ー」(108回)

マハーラージ方が立ち上がり、残りのギーと供物が炎に捧げられた。再び着席し、火を湿らせるためのヨーグルトが注がれた。マハーラージはその後、熱い灰を少し取り出してそこにギーを注ぎ、ディッヴィヤーナターナンダジーがそれを混ぜ合わせてすりつぶし、ビブーティ(聖灰)ができた。



ヴィブーティを準備している間に、マハーラージは特別ゲストを紹介し、この機会に参加者に言葉を述べるようにおっしゃった。その後、参加者は、

マハーラージにご挨拶をして、ヴィブーティを額につけていただき、シュリー・ラーマクリシュナに祈りを捧げた。マハーラージは皆に「本館でプラサード(神への供物の神聖なお下がり)の昼食を食べてください」とおっしゃった。



## 午後の部

昼食後、午後2時45分ごろ、マハーラージは儀式台に着席された。通訳は佐々木陽子さん。ヴェーダ・マントラ詠唱に続き、マハーラージは、別館でのさまざまな祭典の準備と、本館での昼食プラサードの準備を手伝った方々に謝辞を述べられた。そして、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが作詞したシュリー・ラーマクリシュナへのプランーム・マントラの内容と基礎について話が始まった。(下記の講義の内容

をご覧ください)



**2021年4月4日午後の部 返子  
シュリー・ラーマクリシュナ生誕  
祝賀会「シュリー・ラーマクリシュナ  
についての考察」  
スワミー・メーダサーナンダ**

今朝、花をささげた後、次のようなプラナム・マントラを唱えました。

オーム スタパカーヤ チャ ダルマス  
ヤ サルヴァ ダルマ スワルーピネ  
アヴァターラ ヴァリシュターヤ ラー  
マクリシュナーヤ テ ナマハ

普遍的な宗教を取り戻すためにお生まれになった、全世界の宗教の化身  
神の化身の中でもっとも偉大なシュリー・ラーマクリシュナよ

私は偉大な神の化身であられるあなたに、何度も何度も敬礼いたします。

このプラナム・マントラはスワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミージー）がある機会に作りました。今朝歌った『オーム・フリム・リタム』

はそれとは別の機会に作られましたが、後にこのプラナム・マントラをその第5節として加えました。1898年2月に近い信者であるナバゴパール・ゴーシュはベルル・マトからさほど遠くない自宅に聖堂を作ることにし、スワミージーに聖堂の開所式を執り行うように依頼しました。その時、スワミージーはシュリー・ラーマクリシュナへの礼拝をしながら、即興でこの2行のプラナム・マントラを作ったのです。

**もっとも偉大なアヴァターラ（神の化身）**

シュリー・クリシュナ、お釈迦様、主イエスなどすべての神の化身は、真の宗教を復興させるためにあらわれました。スワミージーはすべての神の化身を深く尊敬し理解していました。それなのになぜこのプラナム・マントラの中で、シュリー・ラーマクリシュナを最高の神の化身とみなしたのでしょうか？ 私たちがシュリー・ラーマクリシュナには見いだせて、他の神の化身には見いだせないものとは何でしょうか？

ひとつは「サルヴァ ダルマ スワルーピネ（すべての宗教の化身）」である、ということです。例えば、キリスト教はイエス・キリストのメッセージをもとにしています。ヒンドゥ教はそれより以前から存在していましたが、主イエスがヒンドゥ教の実践をしたと



いう確証はありません。しかし、主イエスの生涯には不明な数年があるので、インドへ渡りヨーガの実践を学んだ、というひとつの意見もあります。もちろん必ずしもそうであるとは限りませんが、その可能性はあります。お釈迦様は仏教の開祖です。ムハンマドはイスラム教の開祖です。このことから、その他の宗教も含めすべての宗教は開祖によって創設された、ということが分かります。

一方、ヒンドゥ教にはシュリー・クリシュナ、シュリー・ラーマ、シュリー・チャイタンニヤなどの複数の化身がいます。バガヴァッド・ギーターは、シュリー・クリシュナの教えをもとにしていますが、そこには主にラージャ・ヨーガ、カルマ・ヨーガ、バクティ・ヨーガ、ギャーナ・ヨーガなど、複数のヨーガがあります。もちろん、シュリー・クリシュナがユダヤ教や、当時まだ創設されていなかったキリスト教、イスラム教の実践をしなかったということは言うまでもありません。しかし、シュリー・クリシュナの教えが総合的なヨーガ実践であることは疑う余地がありません。

### 宗教の調和の確立者

しかし私たちは宗教の歴史上はじめて、さまざまな信仰を実際に実践し、それぞれの道で真理を悟ったことをシュリー・ラーマクリシュナの生涯に見

ます。シュリー・ラーマクリシュナはヒンドゥ教のヴァイシュナヴァ派、シヴァ派、ヴェーダーンタ派などの実践で真理を悟っただけではありません。種々のヒンドゥ教の実践に加えて、イスラム教やキリスト教を独自のやり方で実践したのです。このことが、スワミージーが作った賛歌の最後の「アヴァターラ ヴァリスターヤ (もっとも偉大な神の化身)」の根拠となっています。すべての神の化身の中でシュリー・ラーマクリシュナただおひとりが、さまざまな信仰を実践し、それぞれの道で真理を悟り、母語ベンガル語で「ジヤト マト タト パス (信仰の数だけ悟りの道がある)」と言いました。全ての宗教はひとつの真理への異なった道以外のなにものでもない。この言明は実際の悟りにもとづく信念です！ 学者や知識人がさまざまな宗教を学んで達した結論ではありません。だからこそ、この言葉は非常に深淵でこんなにも皆の心を打つのです。

さらにこの言葉は、今日の対立的な世界に大いに必要な「調和」の基礎の役割も担っています。今ほど技術が発達しておらず小型デジタル機器（携帯電話やゲーム機器など）があまりなかったころ、人はお互いにうまくコミュニケーションを取っていました。しかし、新しい技術を手に入れれば入れるほど、人と人は疎遠になっています。私たちは一人一人がまるで孤島のように

な存在です。イギリスの詩人サミュエル・コールリッジが「どこもかしこも水、水、水。それなのに飲める水は一滴もない！」と言ったように、私たちは人、人、人の中にありながら、孤独を感じています。これは矛盾ではありませんか？ どれくらいの人々がこの社会からの疎外感と孤独に苦しみ、他者とつながれていないのでしょうか？ 日本ではこの現象を「引きこもり」（引っ込み閉じこもる）と言います。

この反応は、すべてのデジタル機器が作られた目的と正反対ではありませんか？ コミュニケーションを高めることが目的であったはずが、結果は真逆になっています。また、最近のデジタル機器は多くの安らぎの時間を与えることが目的だったのに、実際は逆効果で人はもっと忙しくなりました。昼も夜もなく、土曜もなく、日曜ありません。毎日が仕事の日です。そのために私たちは人と人の調和をもたらす方法を考えなければなりません。また、宗教と宗教、国と国の調和をもたらす方法を考える必要があるのです。そこで、シュリー・ラーマクリシュナが述べた調和の哲学、すなわち「ジャト マト タト パス」という調和のマントラが求められています。この哲学を体現し提唱したという意味で、シュリー・ラーマクリシュナはもっとも偉大な神の化身である、と言えるでしょう。

## サットワだけに満たされている

もうひとつの説明があります。サンキヤ哲学には、サットワ（バランス、平和、すべての良い性質）、ラジャス（活動的、野望などの性質）、タマス（不行動、鈍いなどの性質）、という三つのグナの考えがあります。シュリー・クリシュナとシュリー・ラーマは戦士でしたので、その神の化身としての生涯はサットワの性質が優勢でも、ほんの少しのラジャスも見られます。しかし、シュリー・ラーマクリシュナの場合、ほんの少しのラジャスもタマスもなく、サットワだけです。その意味でもシュリー・ラーマクリシュナはもっとも偉大な神の化身だと言えます。

さらに申し上げますと、シュリー・ラーマクリシュナには、シュリー・ラーマやシュリー・クリシュナのような華やかさも威厳もカリスマ性もなく、超能力を見せることもありませんでした。外から見るとシュリー・ラーマクリシュナは、貧しく、へき地の田舎生まれで、ほとんど読み書きもできませんでした。コルカタ近郊の寺院の司祭であり、地元では「狂ったブルーミン」として知られるようになっていました。しかしその内側は、最高に神聖な性質を持つ方でした。

これまで私たちの見解の正当性を申し上げましたが、全ての神の信者にとって自らが選んだ神が最高であり、そ

のことに異議を唱えることはまったくありません。主イエスの信者にとってイエス・キリストは最高の神の化身ですし、お釈迦様の信者にとってはお釈迦様が最高です。スワミージーがキリスト教、イスラム教、仏教にも大いなる敬意を持っていたことは明白です。それとは別のこととして、先ほど申し上げた二つの点で、シュリー・ラーマクリシュナへのプラナム・マントラのスワミー・ヴィヴェーカーナンダの主張には根拠があります。

### 解脱の与え手

シュリー・ラーマクリシュナの霊性の伴侶ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーは女性信者にこのように言ったことがあります。「ねえ、巡礼中に聖者を何人か見たけれど、誰もシュリー・ラーマクリシュナとは比べ物にならなかつたわ」ホーリー・マザーは夫への愛と尊敬からそのように言ったのでしょうか？ それとも何かちゃんとした理由があったのでしょうか？ これを聞いたホーリー・マザーの女性従者で高い霊性の魂の持ち主ヨーギン・マーは言いました。「サードゥ（出家僧）の聖者とシュリー・ラーマクリシュナを比べてどうするのです？ サードゥはサマーディの経験と解脱を得るために一生懸命努力しているけれど、シュリー・ラーマクリシュナは解脱の与え手、サマーディの経験の与え手じゃありませんか！」

ですから、シュリー・ラーマクリシュナと他の近代の聖人の比較はできるでしょうか！ シュリー・ラーマクリシュナはひと触れ、一瞥、もしくは単に望むだけで、他者に最高の霊的経験を授けることができた、とシュリー・ラーマクリシュナの直弟子のひとりスワミー・シヴァーナダは言いました。

皆さんの多くはナレンドラナート（スワミージーの出家前の名前）が、ブラフマンは遍在で、万物・万人に遍満している、というヴェーダーンタの真理を受け入れることができなかったことを思い出すかもしれません。実際、ナレンはブラフマンのその考えを面白がって冗談を飛ばすほどでした。「このポットがブラフマン？ この水差しもブラフマン？ そんなことあり得ますか？ 神を冒瀆していませんか？」それを耳にしたシュリー・ラーマクリシュナは、半ば忘我の状態でナレンドラナートに触れました。するとナレンドラはまさにすべての物は純粋な意識、ブラフマンである、ということを経験したのです。この経験は約一か月も続きました。ナレンドラは、すべてが純粋意識、サット・チット・アーナンダだと見たので、有機物、無機物、生物、無生物、車、鉄道、食べ物、給仕をしてくれる人を区別することができませんでした。☞（『ラーマクリシュナの生涯下』391頁）

私たちは生物と無生物を区別しますが、その境界線は何でしょうか？ 実際はどのように生物、無生物を区別していますか？ いわゆる無生物の各原子はとてつもない可能性に満ちていますね？ 例えばシュリー・ラーマクリシュナのほんのひと触れでナレンドラは「サルヴァン カルイダム ブラフマン（ブラフマンは遍満、遍在）」というヴェーダーンタの真理を完全に自覚し、生物、無生物の違いがなくなりました。

ある時、シュリー・ラーマクリシュナがお住まいのドッキネッショルの敷地内にあるカーリー寺院のそばの小さな木立パンチャヴァティで、スワミー・シヴァーナンダが瞑想をしていました。たまたま通りかかったシュリー・ラーマクリシュナは足を止めてシヴァーナンダジーをちらりと見ました。その瞬間シヴァーナンダジーはクンダリーニが上昇したのを感じ、圧倒的な霊的経験の歓喜でわっと泣き出しました。そのような霊的経験には何年にも渡る霊性の努力と実践が必要ですが、シュリー・ラーマクリシュナはシヴァーナンダジーに一瞥を送っただけでその経験を授けたのです。シュリー・ラーマクリシュナは、霊性を生み出し霊的経験を授ける、巨大な霊性の発電機のようなものでした。

たとえ話と例を用いる達人

シュリー・ラーマクリシュナが教えを説くときには、聞き手に印象が残り、内容がよく理解できるように、たとえ話を用いました。お釈迦様や主キリストのような偉大な霊性の師もよくたとえ話をなさいました。『ラーマクリシュナの福音』の中には多くのたとえ話の引用がありますが、その内容を生き生きと劇的にするために、シュリー・ラーマクリシュナは話に合ったジェスチャーやポーズ、登場人物の声真似もなさいました。上手い役者のようにたとえ話でメッセージを完全に伝えようとしたのです。実際、霊性の師は、ちょっとしたジェスチャー、ポーズ、声真似などのテクニックを使わずにはいられません。なぜなら、そうすることで聞き手への影響が続くからです。シュリー・ラーマクリシュナはこのテクニックの達人でした。シュリー・ラーマクリシュナの代表的な在家信者のギリシュ・チャンドラ・ゴーシュは当時の偉大な舞台俳優で演出家、演技指導、そしてシナリオ作家でした。そのギリシュ・チャンドラ・ゴーシュが、シュリー・ラーマクリシュナから演技について学んだことがある、と言ったほどです。

シュリー・ラーマクリシュナは、哲学の多くの難解な点を例やたとえ話を使って説明しました。その観察力はたいそう優れていました。ある時、サンキヤ哲学のプルシャとプラクリティに

ついて信者たちに説明したことがあります。プルシャは何にも属さず、常に穏やかで静か、澄み渡っていて、何からも影響を受けません。プラクリティはサットワ・ラジャス・タマスの三つのグナの行動とともに常に活動的です。シュリー・ラーマクリシュナはこのことを若い娘の結婚式という特別なイベントに例えて話をしました。家の主婦であるお母さんは、計画、指導、すべての準備、来客のお世話などで大忙しです。一方でその家の主人は静かにリラックスしてクッションの上で水ギセル（フーカー）を吸っています。忙しい主婦（プラクリティ）はときどき主人のもとに行き、さまざまな手続きの進捗状況を知らせます。主人（プルシャ）は、うん、うん、とうなづきますが、身の回りで起こっている何にも影響を受けていません。これが、シュリー・ラーマクリシュナがプルシャとプラクリティを説明した方法です。私たちがサンキヤ哲学のプルシャとプラクリティについて学校で学んでも、正確に理解することは非常に困難です。しかし、このような簡単な例でシュリー・ラーマクリシュナはその要点を伝えました。

### 神はすべてであり遍在

万物・万人の背後には神が存在する、神がすべてとなられた、そのことをシュリー・ラーマクリシュナは、患者は神、病気も神、医者も神、薬も神であ

る、という具体的な例で説明しました。そして次のようなたとえ話をしました。

ある地主が何かの理由で小作人に腹を立てた。あまりに腹が立ったのでその小作人を打ちすえた。たまたまそれを見た僧が地主にやめるように言ったのだが、地主はやめるどころか僧まで殴りつけた。あまりにひどく殴られた僧は意識を失った。

僧が地主に殴られて意識を失ったことを、誰かが彼の僧院に知らせた。すぐに兄弟僧たちが駆け付け、そこに横たわっている僧を見つけ僧院に運んだ。兄弟僧たちは傷の手当てし、風を送り、ぬれた布で顔を拭き始めた。僧が正気づいたようだったので、少しミルクを飲ませることにした。すると僧はゆっくりと目を開けたが、本当に意識を取り戻したかどうかよくわからなかった。いくつか質問をすることにした。ひとりの僧が大声で尋ねた。「マハーラージ、あなたは誰がミルクをあげているかお分かりですか？」

けがを負った僧は非常に弱々しい声で「はい、わかります」と答えた。

それだけでは納得できなかったので兄弟僧はさらに尋ねた。「それでは誰が今、あなたにミルクをあげていますか？」

僧はもう一度弱々しく答えた「私を殴ったお方が私にミルクを飲ませていらっしやる」



（『ラーマクリシュナの福音』146頁）

この話で大事なことは、ただひとつだけが存在する、そのひとつの存在が僧を殴り介抱した、善も悪もなく、男性女性もない、国籍も宗教の違いもない、ということです。すべての形を取っているのは、神ただおひとりです。「すべてのポットの中にあるのは、ラーマおひとりです」

### 子供のような信仰

霊性の生活で大事なことは信仰です。とても清らかで純粋な人は本当の信仰を持つことができます。そしてそれは「子供のような純粋さ」と言われています。子供はお母さんが言うことは何でも信じて疑いません。もし、お母さんが見知らぬ人を「この人はあなたのおじさんですよ」と言うと、子供は100パーセントその人をおじさんだと信じます。もしお母さんが「そこへ行っちゃだめ、お化けが出るのよ」というと、お化けに会うのが嫌でそこに行きません。シュリー・ラーマクリシュナは次のような古くからある物語を話しました。

ある男の子が森の中を歩いて学校に通っていた。森は深く暗く、道の両

側は木々が並んでいた。男の子がひとりでその森を通った時、とても怖い思いをした。

後で男の子は森をひとりで歩くのが怖かったことを母親に話した。母親は言った。「怖いことなどあるものですか。あなたにはマドウスダン兄さんがいるでしょう？」マドウスダンとはシュリー・クリシュナの一名で、『悪魔マドウスダンを殺した者』という意味である。「もし森で困ったことが起きたら、マドウスダン兄さんをお呼びなさい。そうすれば助けてくれます！ 彼があなたを護ってくれます！ だから恐がらないで！」

男の子はお母さんの言葉を信じて再び学校へ行くのに森を通ったのだが、また恐ろしくなったので、「マドウスダン兄さん、マドウスダン兄さん、マドウスダン兄さん、どこにいるの？ 僕、怖いよお！」と言って泣き出した。しかしマドウスダン兄さんはあらわれない。男の子はもっと大きな声で「マドウスダン兄さん、お母さんがね、お兄さんが来てくれるって言ったよ！ ねえ、どこにいるの！ 僕、とっても怖いんだよ！」と言ってさらに涙を流すと、マドウスダン兄さんの姿をした主クリシュナがあらわれた。主クリシュナは男の子を慰めながら言った。「どうして泣くんさい？ ほら、来たよ。これからはずっとおまえさんを守ってあ

げるから、もう怖がらなくていいよ！」  
それからというもの、男の子が森を通るといつも主クリシュナがあらわれて護ってくださった。☞ (『ラーマクリシュナの福音』306頁)

信仰という考えを深めるためにシュリー・ラーマクリシュナがお話になったもうひとつのとても感動的な話があります。幼児婚が当たり前の時代、インドも例外ではありませんでした。

その当時、ある女の子が年配の男性と結婚した。夫が亡くなると、女の子は幼くして未亡人になってしまった。女の子は、結婚や夫、妻の意味がまだ分からなかったのので、夫を失ったということを理解していなかった。女の子が少し大きくなると、夫がいる周りの友達はとても幸せそうなことに気づいた。ある日、女の子はお父さんに尋ねた。「お父さん、私の旦那さんはどこですか？ 皆、旦那さんと一緒に幸せそうなんです。ねえ、私の旦那さんは？ どうしてここにいらっしやらないの？」

女の子をなだめる他の方法を思いつかなかったお父さんは言った。「娘よ、ゴーヴィンダ（主クリシュナの別名）がお前の旦那さんだよ。彼を呼びなさい、そうすればあらわれてくださるから」

女の子は自分の部屋に戻って、涙にぬれながら泣き叫びました。「ゴーヴィンダ！ どこにいるの！ 私の旦那様なのに、どうして私のそばに、ここにいらっしやらないの？」 女の子は何日も泣きながらゴーヴィンダにそばにいてくれるように懇願した。ついに主クリシュナがあらわれて言った。「私はゴーヴィンダ、お前の旦那さんだよ。だからもう泣かないでおくれ」☞ (『ラーマクリシュナの福音』305頁)

これらの話は信仰について語っています。息子が森を歩くのを怖がった時、母親はマドゥスダン兄さんが保護者になってくれる、と保証しました。その次の話では、夫が亡くなったことを理解できない女の子に父親が、お前の旦那さんはゴーヴィンダだ、と言います。それに納得した女の子はゴーヴィンダがあらわれるまで泣き続けました。これらは子供のような信仰の例です。マドゥスダンやゴーヴィンダは本当に存在しており、私たちを護るためにきてくださる、ということ、大人である私たちは信じるのでしょうか？ いいえ。なぜなら私たちは純粋さ、つまり子供のような信仰を失ってしまったからです。年齢を重ねるにつれ、疑いや混乱が自分の中に徐々に増えていきます。

## 信仰と信仰心のなさ

これから申し上げるシュリー・ラーマクリシュナが話したたとえ話は、信

仰と信仰心のなさ、の両方の例です。

ある男が海を渡ろうとしていた。ヴィビシヤナ王（ラーマヤナ叙事詩の中で、魔王ラーヴァナが主ラーマに殺された後、セイロンの王になった方）が一枚の葉にラーマの御名を書き、その男の服の端に結わえて言った。「恐れるでない。信仰をもって水面を行きなさい。しかし、服に結わえたものへの信仰をお前が失った瞬間、溺れるだろう」

男はいとも簡単に水面を歩き続けた。突然彼は服に結わえてあるものが何か、どうしても見たくなくなった。男が服の端をほどいてみると、ラーマの御名が書かれた一枚の葉だけがあった。「これは何だ？」 「ラーマの御名だけじゃないか？」 男の心に疑いが入った瞬間、男は溺れてしまった。

（『ラーマクリシュナの福音』14、38頁）

もう一つ、シュリー・ラーマクリシュナがお作りになった信仰と信仰の欠如に関する話をします。

乳しぼりの娘が川の片岸に住んでいた。娘は反対岸に住むブラーミンに毎日新鮮な牛乳を運んでいた。娘は毎日、渡し船を待たなければならなかった。渡し船の船頭は時間にだらしなかった

ので、娘はしょっちゅうブラーミンに牛乳を届けるのが遅れた。あるときブラーミンはイライラして乳しぼりの娘に腹を立てて言った「どうして牛乳が届くのがこんなにもおそくなるのだ？」 「もっときちんと届けられないものか？」

娘は答えた。「尊いお方様、私は川の向こうから船に乗って牛乳を持ってきたのですが、その船頭が時間通りに来ないのでございます」

「なんだって!？」とブラーミンは叫んだ。「人は主、ハリの御名を唱えることで、世俗の海全体を渡るというのに、お前はこの川も渡れないのか!」

それからというもの、娘がきっちりと牛乳を届けるようになったので、ブラーミンは不思議に思った。ブラーミンは尋ねた。「何だったの？ あんなに時間がまちまちだったのに、今ではきっちりと牛乳を持ってくるではないか？ 何があったのだ？」

これに驚いた娘は答えた。「どうしてでございます？ あなた様が私にその方法を教えてくださったのではないですか!」

「ええ？ 私が何と言ったかね？」



「先日、あなた様はハリの御名を唱えよ、とおっしゃいました」「私は川を渡れるのでございます。それからというもの、私はハリの御名を唱えながら川を歩いて渡っているのです。それだけです」

驚いたブラーミンは叫んだ「本当かい？」「では見せてくれたまえ」

「わかりました。私と一緒にお願いします。とても簡単でございます」

二人が川岸につくと、乳しぼりの娘は「ハリ、ハリ、ハリ」と唱え始めた。そして川岸から川に足を踏み入れた。

それを見ていた信仰が薄く疑い深いブラーミンも「ハリ、ハリ、ハリ」と唱え始めた。しかし彼は服が濡れないように持ち上げて川に足を踏み入れた。

「それではだめです！」と乳しぼりの娘は叫んだ。「ハリ、ハリ、ハリ、と唱えながら、服が濡れることを心配なさるとは。それでは川は渡れません」

中には信仰心の浅い人もいます。それではいけない！ 信仰を深めなさい、そうすればラーマ、クリシュナ、ラーマクリシュナの御名を唱えることで、世俗の海を渡ることができます。

今日はシュリー・ラーマクリシュナのたとえ話とその意味について話をしました。今日、家に持って帰ることができるのは、神様ただおひとりが名前と形を持つすべてのものになっている、ということです。つまり、私たちは神を探すのではなく神を見なければなりません。神を探さないで、神を見てください！ そのためには信仰が必要です。聖典の言葉への信仰、グルの言葉への信仰、神への信仰、そして最終的にスワミー・ヴィヴェーカーナンダがおっしゃったように、「自分自身への信仰」を持ってください。

## 忘れられない物語

### 「四つの階級」

「神のおつくりになったこの世界には、人、獣たち、草木など実にいろいろなものがある。獣たちの中でも、あるものは善く、あるものは悪い。トラのように恐ろしい獣もいる。ある木々は甘露のように甘い実を結ぶ。また毒の実を結ぶ木もある。同様に人間の中にも善い人びとと悪い人びと、霊的な人びととそうでない人びとがいる。神に献身している人びとがいるかと思うと、世間に執着している人びともいる。

人は四つの階級に分けられるだろう。世間という足かせに縛られている人びと、解脱を求めている人びと、解脱した人びと、およびつねに永遠に自由な

人びとである。

・つねに永遠に自由な人びとの中には、ナーラダのような賢者たちを数えることができるだろう。彼らは他者の福祉のために、人びとに霊性の真理を教えるために、この世に生きているのだ。

・束縛されている人びとは、世俗に沈んで神のことは忘れていて、間違っても神のことは思い出さない。

・解脱を求めている人びとは、世間への執着から自分を解放したいと欲している。彼らの中のある者たちは成功し、ある者たちは成功しない。サードゥたちやマハートマーたちのように解脱した魂は、世間、つまり『女と金』に巻き込まれることはない。彼らの心は世間に縛られない。それに彼らはつねに神の蓮華の御足を瞑想している。

魚をとるために湖水の中に網が投げられたとする。ある魚はじつに利口で、決して網にかからない。彼らは、つねに永遠に自由な魂に似ている。しかし大部分の魚は網にかかる。そのあるものはそれから逃れようと努める。彼らは、解脱を求める連中に似ている。しかし、努力する魚の全部が成功するわけではない。ごくわずかのものたちが、おおきな水しぶきをあげながら網の外に飛び出す。そのとき漁師は、『ほら！

大きな奴が逃げていくぞ！』と叫ぶのだ。

しかし、網に捕らえられた魚の大部分は逃げることはできないし、逃げる努力もしない。あべこべに、彼らは網を口にくわえたまま水底に穴を掘り、『恐れる必要はない。ここで十分安全だ』と考えてその中にじっと横たわっている。哀れな奴らは、漁師が網とともに自分たちを引きずり出すであろうことを知らないのだ。これらは、世間に縛られている人びとに似ている。

縛られた魂たちは、『女と金』というかせによって世間に結びつけられているのだ。彼らは手も足も縛られている。『女と金』が自分を幸福にし、安全にすると考えて、それが自分を破滅に導くということは悟らない。

このように世間に縛られている男が死に臨むと、彼の妻がたずねるのだ、『あなたは死のうとしていらっしゃる。しかし、あなたは私に何をしてくださったのですか』と。

また、世間の事物への彼の執着はじつに強いものだから、ランプが明るく燃えているのを見ると、『ランプを暗くせよ。油を使いすぎる』などというのだ。しかも彼は、死の床にいるのだよ！

縛られた魂たちは決して神のことを考えない。ちょっとでもひまがあれば、

くだらない雑談やばかげたおしゃべりにふける。または、益のない仕事に従事する。もし彼らの一人に尋ねるなら、彼は答える、『はあ、私はじっとしてられない性分です』と。時間をもてあますと彼らはたぶんカルタをはじめたろう」

『ラーマクリシュナの福音』1882年3月より p 13

## 今月の思想

あなたが間違いなく改善できる宇宙のただ一つの場所がある。それはあなた自身だ。

…オルダス・ハクスリー

**発行：日本ヴェーダータ協会**

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)